

平成 13 年
社会安全研究財団委託調査研究報告

インターネット利用古物営業の実態調査について

平成 14 年 3 月

調査機関：WEB110

調査報告書目次

第1 本調査の背景と目的	2
第2 研究又は収集する資料の内容と収集方法	
(1) インターネット個人売買サイトの概要	
A. 国内主要ネットオークションサイトの数及び商品の出品数	3
B. 個人が運営するオークションサイトの数	4
C. 国内主要個人売買専門サイトに掲載されているメッセージの数量	5
D. 国内最大級の電子掲示板における物品の販売メッセージの数	6
E. 無許可で古物営業を営んでいると思われる者のウェブサイト	7
F. 盗品と疑わしき物品が出品されていると思われるウェブサイト	8
(2) インターネットにおける盗品・禁制品等の流入状況	11
(3) 盗品の可能性のある物品を出品していると思われる者の抽出	11
第3 調査結果	
(1) インターネット個人売買サイトの概要	
A. 国内主要ネットオークションサイトの数及び商品の出品数	12
B. 個人が運営するオークションサイトの数	14
C. 国内主要個人売買専門サイトに掲載されているメッセージの数量	17
D. 国内最大級の電子掲示板における物品の販売メッセージの数	18
E. 無許可で古物営業を営んでいると思われる者のウェブサイト	23
F. 盗品と疑わしき物品が出品されていると思われるウェブサイト	25
(2) インターネットにおける盗品・禁制品等の流入状況	28
(3) 盗品の可能性のある物品を出品していると思われる者の抽出	30
第4 参考事項	
(1) 違法・有害サイトの動向	40
(2) 盗難車情報	41
第5 問題点の整理と今後の課題	
(1) ネットオークション事業者に対する模範ガイドラインについて	42
(2) 届出番号、許可証番号の表示義務と信頼性の維持	44

第1 本調査の背景と目的

インターネットオークションが発展する中、盗品等の出品、不正品の取引等が顕在化している。こうした中、古物営業法の諸規制をインターネットの匿名性を特徴とした古物取引に適合させ、「盗品等の売買の防止及び速やかな発見」を図る必要性があることから、盗品等の出品の実態及びその予防対策の在り方について調査研究を行ってきたが、その過程において、盗品を多く扱っている「盗品サイト」について、さらに詳しく調査を行う必要が生じた。そこで、一見して盗品らしき物が多く含まれており、かつ、主催者がそれを容認しているような「盗品サイト」を対象として、その実態等について追加の調査研究を行うものである。また、上記実態を分析する前提として、インターネット上の古物取引一般についても更なる基礎データが必要であることから、併せて調査研究を行うこととする。

事業従事者

WEB110 代表 吉川誠司

株式会社ガーラ

株式会社イシサキ